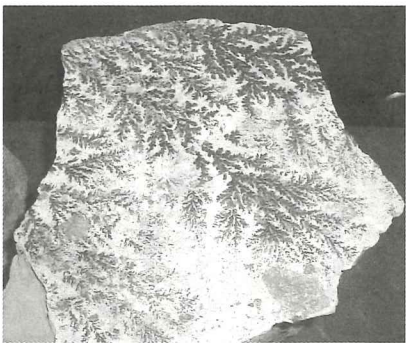


郷土館発

郷土館の岩石を
訪ねてみませんか

北設楽地方は、地質や岩石に関わる文化も豊富です。

津具金山、八橋の設楽鉱山、段戸のマンガン鉱や金鉱石、振草の絹雲母等の鉱石類。各地で見つかる化石類。設楽海や設楽火山・設楽カルデラ（設楽盆地）の遺構等々。



マンガン鉱(しのぶ石)



基底礫岩

地質や岩石に関わることで郷土館を訪れる人がよくいます。

少し前のことです。郷土館を訪れた人が、田口線の車両の横に展示されている大きな石を見て「大きなざざれ石がありますね。」と声をかけてくださいました。「ざざれ石」とは「君が代」に歌われている石のことです。「君が代」に歌われた「ざざれ石」は、伊吹山の麓にあり、岐阜県の天然記念物に指定されています。

残念ですが…、郷土館の石はざざれ石とよく似ていますが「ざざれ石ではありません。」しかしこの石も、設楽町にあっては意味のある石です。

千六百万年ほど前、奥三河が海だった頃、その海底に積み重ねられてできた岩石で、設楽の底を作る地層であり基底礫岩といわれています。海底の泥や砂の中に様々な岩石(礫)が落ち込み、それらが固まってできたものです。この上にできた層が海で生息していた動物の化石が見つかる砂岩の層です。

郷土館を訪れ、北設楽地方の様々な鉱石や化石、千六百万年前の岩石と親しく触れ合ってみませんか。

(奥三河郷土館 館長

加藤 紘市)

